

2019年度

高校帰国生B方式

時間50分 100点満点

# 国語

## 受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施時間は50分で、100点満点です。時間配分に注意して解答してください。
3. 解答は解答用紙にていねいに記入してください。
4. 解答用紙・問題用紙両方に、受験番号、座席番号、名前を記入してください。座席番号は、机に貼ってある番号のことです。
5. 試験中は携帯電話の電源を必ず切ってください。
6. 私語や物の貸し借りなどは認めていません。困ったことがある場合は、手をあげて先生に相談しその指示に従ってください。

受験番号 \_\_\_\_\_ 座席番号 \_\_\_\_\_

名 前 \_\_\_\_\_

聖学院高等学校

次のページから問題が始まります

□ 次の文のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 日本語には中国の古典にユライするものが多い。
- ② ヨウケンを手短に伝える。
- ③ 声がるするホウガクに走った。
- ④ 医者からエイヨウをしつかり取るように言われた。
- ⑤ タニゾコに吸い込まれそうになる。
- ⑥ 宮沢賢治のドウワを読む。
- ⑦ ケガワのコートを着たおばあさん。
- ⑧ 校内に空調セツビを整える。
- ⑨ コウエンの池に橋がかかっている。
- ⑩ プラスチック製品はカコウがしやすい。

□ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

自分方を身につけ、高めよう……。こう言うと、何かとても大変なことをやらなければならないように感じるかも知れませんが、あまり難しく考える必要はありません。

まずは身近なことから見直していきましょう。たとえば、携帯メールのやりとりです。日本に來ると、電車の中はいうにおよばず、道を歩いている時でさえ携帯メールのやりとりをしている人を見かけます。こういうシーンを、私はでさるだけ見たくない。なぜなら、携帯メールを四六時中やっている人の姿が、携帯電話に振回されて他のことを何も考えられなくなっている（「A」）に見えてしまうからです。

携帯電話は確かに便利な道具です。ITが便利なのはいいけれど、フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションの重要さが、どんどん忘れられているような気がします。ここで一つ、みなさんに質問をします。

「携帯メールのやりとりって、絶対に必要なの？」

もしあなたの答えが「イエス」だとしたら、それは孤独感あるいは淋しさの現れかもしれません。本当に緊急の用事があるわけではなく、「仲間とつながっている」という感覚をキープしたいために、携帯メールのやりとりをしているわけではありませんか？

B 自分方を高めようと思うなら、まずそこから見直すべきだと思います。

もちろん私は、友達とのつながりを否定しているわけではありません。携帯電話を持つとか、メールをすべてやめる、などと言っているのでもありません。緊急連絡が必要ということだっただけであるでしょう。

ただ、C「自分一人きりになる」ということの重要さを知ってほしいのです。

携帯メールに振り回され、他のことを考える余裕もなくなつて、「メールが来ないと淋しい」「携帯がなかったら生きていけない」「メールが来ないのはみんなに嫌きらわれているからだ」といった強迫観念きょうはくかんねんに追い込まれてはいませんか？もし思い当たる点があるなら、しばらくの間、携帯電話なしで生活してみたらどうでしょう。嘘うそも方便で「壊れちゃった」ということにして、何日間か、携帯メールから自分をD解放しやうぱいしてみるのはです。

そうすれば、自分一人だけの時空間を持ち、思索しそくすることの大切さがわかると思います。

読書が好きな人もいますでしょう。日記を書くことに意味を見出している人もいますでしょう。あるいは公園のベンチこしかに腰掛けて考えることがリフレッシュにつながるという人もいますでしょう。それぞれにあった趣味というものは、人間にとって大事なことです。しかし、どれも、誰かにメールを打ちながらやるものではありません。

朝の洗面の時だつてそうです。一人きりでしょう？鏡の中の自分の顔を見て「昨日、友達と喧嘩けんかした。今日は普通ふつうに話せるかな」とか、「宿題やつてない。当てられたらどうしよう」などといろんなことを思いながら、自分自身と会話しているわけです。その時に携帯メールが気になるようなら、Eかなり問題もんだいです。

一人きりで自分と向き合う時空間には、友達と話したりメールしたりしている時とはまったく違ちがう、独特の感覚があるはずです。

学校の成績や友達関係以外のことで、自分の興味はどんなことに向いているのか。あるいは、どんなことに自信をなくしているのか。成績に自信がないのか、生き方に張りがないのか、家族との毎日のやりとりがぎくしゃくしているのか、人とのコミュニケーションがうっとうしくなっているのか。そういうことをじっくり考えられるのも、一人で自分と向き合っている時です。

F そういう時空間を、どうか大切にしていってください。

〔今北純一「自分力を高める」〕

問一 「A」を補うのにふさわしい言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア、機械の旅人      イ、機械の番人      ウ、機械の専門家      エ、機械の奴隷<sup>どれい</sup>

問二 ――印Bについて、「まずそこから見直すべき」の理由として、もっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア、「自分力」とは、自己と向き合って対話することによって培<sup>つちか</sup>われるものだから
- イ、自分の弱さから逃げ、携帯メールになぐさめを求めるようになるから
- ウ、良識ある大人になるためには、孤独感や淋<sup>た</sup>しさに耐えることも必要だから
- エ、便利な道具には、個人情報<sup>こじんじょうほう</sup>の流出といった落とし穴があるから

問三 — 印Cについて、どのような点で「重要」のですか。次の中から選び記号で答えなさい。

ア、人とのやりとりのわずらわしさから逃れられるという点

イ、静かな状況で思索することの大切さに気付けるという点

ウ、人に頼って解決するのではなく、問題を一人で受け止めるという点

エ、わずらわしい対人関係を見直すきっかけにできるという点

問四 — 印Dについて、この箇所で「遠ざけてみる」「距離をとってみる」という表現を使わず、「解放してみる」と

いう表現を使うのはなぜですか。二十五字以内で説明しなさい。



問五 — 印Eについて、「かなり問題です」とありますが、その理由としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、自分ことより他人のことを優先させているから

イ、人の指示がないと動けない人間になってしまうから

ウ、自分の一日の予定を整理することができなくなるから

エ、一人きりの時間の大切さを忘れてしまっているから

問六 — 印Fについて、「そういう」の条件が示すことばは何ですか。本文から十二字でぬき出して答えなさい。

問七 本文において、筆者は「自分の力を高めるために、時には携帯電話を置いて、読書や日記といった趣味の時間を持つこと、自分自身のことを考える時間を持つこと」の重要性を説いています。こうした行為は、自分のどのような力を高めることにつながりますか。一行で説明しなさい。

☐ 絵を描くことが好きな「浩」は、自分の作品を展覧会に出展しました。本文は、それに続く場面です。次の文章を  
読んで、後の問いに答えなさい。

小学校の講堂には、良い絵が並んでいた。ほとんどは、浩が足もとにも及ばないほど達者だった。ある作は、工夫も技術も自分をはるかに越えていることが解ったし、ある作は、単純な図柄に情感を籠めているのが解って、圧倒される思いだったが、かといって、その衝撃によって、自分から自分が脱け出ることにはできなかった。相変らず暗い自分を引きずりながら、彼は会場を回った。そして、自分の絵の前に立つと、テもなくその暗い自分そのものに嵌ってしまつた。構図はいたずらに単調だったし、色はくすんでいた。描き終えた直後に感じた疲れの塊りの印象さえ消えていた。A 疲れさえ絵に籠めることができなかつた。疲れはわが身にだけ引き受け、絵は脱け殻になつてしまつた、と彼は感じた。仔細（※1）に検討するのはいやだった。B そそくさと眼を逸らし、他の作品の中をつきつて、講堂から逃れ出た。C 鮮かな他人の作品は、形や色を無力な少年のうなじの辺に浴びせかけてくるように感じられた。

家に帰ると、展覧会のことを語りかけてきたのは、母方の祖母だけだった。他の家族は、浩がそれを問題にするのを避けたがつているのにD 符節を合わせるように、だれも問題にしなかつた。

浩の絵は、講堂へ飾つてあるそうじゃないか。あんた一生懸命やるね、と祖母は言つた。

——いつ聞いた。

——今朝、権さ（※2）に見に行ってもらったのよ。飾ってもらえなかったら、どうしようと思って。

——壁かべに並ならんでいれば、それでいいよ。

——それでいいさ、それで上々。賞はもらわなかったのかえ。

——もらわなかった。

——浩が一番若いんじゃないのかえ。

——そうでもないだろう。

——もつと若い人がいるのかね。いやせんでしよう。どうだった、自分の絵を眺ながめて、自信がついたんじゃないか。

——がっかりした。

——お前はいつも反対のことを言う。

祖母は浩の顔を見守っていた。喜びの色を見て取ろうと努めていた。しかし祖母の腑に落ちない表情は変わらなかった。張り合いなげだった。浩は、自分の絵のことを思つてムキになつていたらと、祖母が受け取るのは当然だと感じた。果たしてムキになつていたのだろうか、と考えてみたが否定も肯定もできなかった。ただ、その間の瘦やせてぎこちない姿勢や動作だけが、克明に浮かびあがった。

彼は家の裏門うらもんへ行つて、橋の上から水を見ていた。町の裏通りに沿っているその堀割りには、澄んだ水がせわしく流れていた。湿った石垣いしがきには蛙かえるがひそんでいて、時おり水に入つて泳いだ。流れの皺しわにまぎれて、魚の影かげが揺ゆれているのも見えた。人工を離れて、心を無なにすることはできないだろうか、と彼はぼんやり 希こいねが っていた。

祖母が後を追うように来て、

——行水ぎょうすいをおつかい（※3）、と言つた。

定まつた仕事もしていない彼女は、不安になるのだらう。浩につきまとう時もあつた。E彼が盥たらいに入ると、三箇さんこの鍋なべと、蒸器むしきにたたえた薄緑の水を、顎筋あごすじから懸かけてくれた。それから、彼は水を注つぎ足し、タオルで体を濯ゆすいだ。F苦しみを忘れるためには、結局この方法しかなかった。絵が索然さくぜん（※4）とした結果に終つた今は、感じ方が倒錯とうさくして

（※5）、この行水の慰なぐさめを得るために、あえてあんなことをしたと、彼は自嘲じちよう（※6）をまじえて考えた。

それでも彼は、翌日の午頃、スケッチブックを抱えて、山へ行つた。町の家並みを出はずれて、五百メートルも歩けば、もう山間部さんかんぶだつた。彼は遠い山並みをスケッチしては、それぞれの山の色の違ちがいを、文字で書き入れた。濃緑の彫刻ちようこくのような樫かしも、広い範囲にただけしくはびこつた笹の斜面えがも描いた。かつては気持が解放されていたスケッチの時間が、この時はそうではなかった。自己格闘じこかくとうに陥おちこんだ。いつの間にか、タブロー（※7）に持つて行くにはどうすべきか、と懲こりもせず考えながら鉛筆えんぴつを走らせていたりした。炎天えんてんに長い間立っているのに、ふと気がつくことも

あつた。

スケッチしたことに、後悔こうかいに似た思おもいを抱かかいて、山を下りた。谷間たにまの田圃中たんぼじゅうの道を、町へ引き返かへしていると、遠とほくに坪内ひらうちという中学時代の教師が見えた。彼を認めた時、浩は普通ふつうの世界せかいに戻もどつた気がした。この日ひごろ忘れていたのどけさが自分の周りに立ちこめかけているのに気づいた。見おぼえのある坪内の歩きぶりのせいでもあつた。遅おくしい肩かたを少し左右ひだりに振り、拍子ひょうしをとつているようだつた。黒縁くろえんの眼鏡めがねがくつきりしてきた。頬ほほの剃そりあとの青い、太い縦皺たてしわが見えてきた。一刻一刻いっくゝいっくゝを浩は意識いしきした。坪内は笑わらみを含ふくみながら近寄ちかつて、

——講堂こうどうで見たよ、いい絵を出したな、と言いつた。

——うまく行きませんでした、と浩は応こたえながら、ぎこちない唇くちびるを意い識しした。

——いつ描えいたのか。

——締切しめぎりり直前ちか前に描えきました。

——あれは春はるの崖がけじゃあないか。岩いが春はるの肌はだだ。

——夏なつです。

——岩いに季節きせつはないのか。だが、どことなし、春はるを感じたが……。お前おまえ、色いろを数かず使つかい分わけてあるぞ。形かたちもしつかり取とつてあるし、相当たうとうな上達じやうたつぶりだ。

——僕はみすぼらしいと思いました。

——文句をつければ海と松が型に嵌はまったが、岩はいい、描きにくいと思うんだが、よくあれだけ暖あやかく綾を出したな。

——……………。

——お前の性質が出ている。

——……………。

——岩から絵を感じとっている。

——眼が岩にしがみついていたんです。

——はははは、眼がしがみついていたか。G力作リキサクという感じはしないがな。お前の性質がすーっと出たんじゃないか。

坪内は、俺おれの所へ遊びに来いよ、と言って去った。H浩ヒロは、在学していたころより、かなり大人扱おとないされたのを感じた。

〔小川国夫「崖の絵」〕

※1 仔細……ものごとのくわしい様子

※2 「権さ」……「浩」の兄

※3 「行水をおつかい」……「行水」とは、たらいに入れた水で体の汗をふき取ること。ここでは、「行水をするのか

い」の意味

※4 索然……バラバラで趣きがないさま

※5 倒錯……ひっくり返ること

※6 自嘲……自分で自分の欠点をあざけ笑うこと

※7 タブロー……完成作品

問一——印Aについて、ここでの「疲れ」とほぼ同じ意味合いで使われている言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、暗い自分

イ、抜け殻

ウ、単純な図柄

エ、構図

問二——印Bについて、ここでの「そそくさ」の説明としてふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、他の達者な絵から工夫や取り入れようとする謙虚な気持ちを持つこともせず

イ、自分の作品への愛着を失い、もうどうでもいいという激しい怒りを胸に抱いて

ウ、これまで努力してきた結果が評価されず向上心を失ってしまった状態で

エ、自分の作品のどこがうまくいかなかったのかをくわしく見て反省する気も起らず



問三 — 印Cについて、この箇所の説明としてふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア、技術にこだわりすぎて、率直な描き手の思いを表現する力が隠れてしまったと言われているようだった
- イ、工夫や技術はもちろんのこと、自分の内面を引き出すことすらできていないと言われているようだった
- ウ、自分の思いが先走りすぎて、身に着けている技術が十分に作品に出ていないと言われているようだった
- エ、自分の作品が他の立派な絵と同じように飾られているのが当然だと言われているようだった

問四 — 印Dについて、本文における意味としてふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア、気が付いているように
- イ、怖がっているように
- ウ、調子づいているように
- エ、元気づけるように

問五 — 印Eについて、このときの「祖母」の心理としてふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、一生懸命描いた作品が評価されなかった「浩」をなぐさめたい一心である

イ、何かしていないと居ても立っても居られないという落ち着かない気持ちでいる

ウ、ほかの家族が「浩」に対してあまりにも無関心であることにうらみを抱いている

エ、「浩」になにかしてやろうという思いと自分も何かしていたいという思いがある

問六 — 印Fについて、「苦しみを忘れる」ために、「浩」にとって必要なことは何だったのですか。これより前から

十五字以内でぬき出しなさい。

問七 —— 印G「浩」の絵について評価する「坪内」の説明としてふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、浩を元気づけようと何か良い点がないかと探している

イ、浩の絵から感じ取った印象を率直に評価している

ウ、浩の悩みなど小さいものだという事を伝えようとしている

エ、もっと良い作品にするための忠告を与えようとしている

問八 —— 印Hについて、なぜ「浩」はこのように感じ取ったのですか。その説明としてふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、坪内との会話では、自分のことを飾ったりも弱音を吐いたりもせず、率直にやりとりできたから

イ、これまで細かい注意ばかりしてきた「坪内」が、今回は自分の絵の良さを認めてくれたから

ウ、山でスケッチしたことからのどけさを取り戻し、久しぶりに開放感を得た直後だったから

エ、坪内は自分の性格を一番わかっていて、絵の上達ぶりを具体的にほめてくれたから

問九 本文の話の流れや展開や表現の説明としてふさわしくないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、「索然」「倒錯」「自嘲」といったむづかしい言葉を多用することで、「浩」が大人びたふるまいを見せようと背伸びしていることを暗示している

イ、前半での「祖母」と「浩」とのかみ合わないやりとりと、最終部での「坪内」と「浩」との率直なやりとりが対比されて、「浩」の心理の変化を効果的に表している

ウ、「流れの皺」や「濃緑の彫刻のような櫛」など、自然をありのまま描くのではなく、より立体的に描こうとする工夫がみられる

エ、「祖母は浩の顔を見守っていた」や「スケッチしたことに後悔に似た思いを抱いて」というように、書き手が第三者の視点と「浩」の視点とを使い分けている

三					二					一		
問九	問八	問七	問六	問一	問七	問六	問五	問四		問一	⑥	①
				問二						問二	⑦	②
				問三						問三	⑧	③
				問四							⑨	④
				問五							⑩	⑤

受験番号
座席番号
名前

2019年度 帰国生入試B方式 入学考査問題 国語・解答用紙 聖学院高等学校
--